詩

【小学1年生・2年生】

準特選

いちりんしゃ

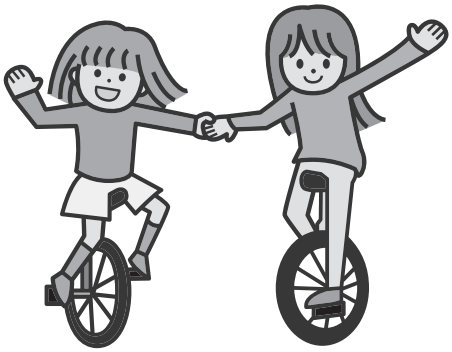
城東小学校2年
佐渡　知紗

いちりんしゃで
のぼりぼうまで
いきたいな

いちりんしゃで
ともだちと
ろくぼくまで
いきたいな

手をつないで
いきたいな

（評）いちりんしゃにのれるって、ワクワクしますね。「いちりんしゃ」のこの詩からも、ワクワクする気持ちが伝わってきます。さいごの「手をつないでいきたいな」ということばがいちりんしゃで手をつなぐむずかしさと、友だちといっしょにという気もちがこもっていて、いいなと思いました。
（彦根文芸協会　西村　和野）



入選

わたしのたんじょうび

稲枝東小学校1年
大西　和奏

わたしのたんじょうび
うれしいな
みんながいわってくれてうれしいな
けーきおいしいな
みんなでたべたら　おいしいな
みんなもたのしい　ぜんいん　たのしい

【小学3年生・4年生】

特選

おまっ茶

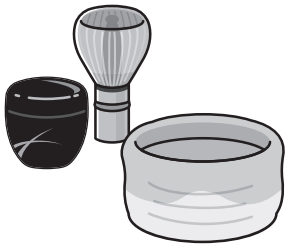
佐和山小学校3年
田丸　裕理

千代神社で　お茶を点てたよ
シャカシャカシャカ
「の」の字を書いて　一周くるり
はっぴを着た人がいっぱい
「わあ　おいしい！」

「ゆかた祭り」で　お茶を点てたよ
シャカシャカシャカ
「の」の字を書いて　一周くるり
子どもいっぱい
「わあ　すごい！」

「かん月の夕べ」で　お茶を点てたよ
シャカシャカシャカ
「の」の字を書いて　一周くるり
お客さんいっぱい
「わあ　上手！」
おまっ茶大すき！
いっぱい点てるよ

（評）いつもの生活や行動とは違って、「おまっ茶を点てる」ということの作法から、作者の心の持ち方や会場に集まって見つめている人々の表情まで、いきいきと表現できています。三連それぞれに華やかに、あるいは賑やかな様子が描かれていて素敵な詩作品となりました。
（彦根文芸協会　やまかみ　まさよ）



特選

テスト

城南小学校4年
栗本　桜奈

ジャボン　ジャボン

あぁ　きんちょうするな
だって今は　水泳のテストの真っ最中

もうすぐ　もうすぐわたしの番だ
教えてもらったことを全身で使って
ゆっくり　ゆっくり

あれ？
いっしゅん　まわりの音がなくなった

テストはぶじ　合格だった
最後のなくなった音は　何だったのだろう
まるで　別の世界に入ったような…

まあいっか
テストは無事に　終わったし

（評）水泳のテストがあるという。その最中に多分手足を働かしながらも水中では、たくさんの「ことば」を、「ジャボン　ジャボン」と刻んでいたのでしょうね。必死な様子が三連目に表現されていて、形のよい詩となりました。泳ぎ方もきっと素敵なのでしょう。

（彦根文芸協会　やまかみ　まさよ）

準特選

心ってふしぎだな

金城小学校3年
西岡　紗希

心ってふしぎだな
うそか本当どっちなの
自分でしか分からない
自分だけのたからもの
自分でしか分からない
世界に一つだけのたからもの

心ってふしぎだな
いろんな気持ち
親しい人でも分からない
ドキドキ　シクシク　ホッ
たくさんのひみつの気持ち
ドキドキ　シクシク　ホッ

（評）「ふしぎ」を感じることがたくさんある中で、自分自身の「心」をみつめている所が素直でよい点と思います。「世界に一つだけのたからもの」にするほど大切なことなのですね。それは自分以外の「ひと」をも大切におもう心にもつながると思います。

（彦根文芸協会　やまかみ　まさよ）

準特選

すいすいおよげた

城南小学校3年
前田　茉帆侶

およげたおよげた
プールでおよげた
ビートバンもってすいすい

およげたおよげた
足をバタバタさせてすいすい
すすんでいった

およげたおよげた
ゴーグルの中
目をあけてすいすい

およげたおよげた
うれしかった
楽しかった
むずかしかった

（評）泳げるようになるまでには、大変な練習が必要で、さらに「すいすい」といくまでは、ずいぶん頑張ったのでしょう。その作者の真剣な気持ちが最終行の「むずかしかった」の言葉で伝わってきます。すごい努力のあとがうかがえるよい作品となりました。

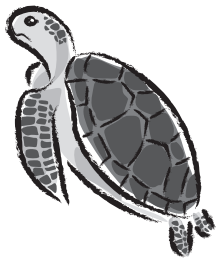
（彦根文芸協会　やまかみ　まさよ）

佳作

おもしろいかめ

金城小学校3年
益満　莉桜香

えさをあげようとする
とてもうれしそうにパチャパチャするよ
とてもおなかがすいているときは
バチャバチャと　およいでくるよ
かめなのに　あしがとてもはやくて
はしると　たたたたと　いうよ
体は小さいのに
こうらがとてもかたくて
とてもじょうぶだよ
おもしろくて
かわいいかめなんだよ
自分だけのたいせつなかめだよ



佳作

秋のおちば

金城小学校3年
右近　奏磨

木からおちる秋のおちば
たくさんあつまる秋のおちば
木から風にゆられておちてきて
ペラペラペラペラペラペラ
風といっしょにおちてきて
おちばの山にとびこんで
にこにこわらってたのしいな

木からおちる秋のおちば
みんなであつめて秋のおちば
みんなでかけあい秋のおちば
風といっしょにおちてきて
みんなふさふさたのしいな

佳作

夏休みのしゅくだい

稲枝東小学校3年
大西　詩楽

夏休み　りょ行に行きたい
夏休み　プールに行きたい
そこにお母さん「しゅく題やったの？」
夏休みのしゅくだい　ワーク二さつ
夏休みのしゅくだい　自由けんきゅう
夏休みのしゅくだい　読書かんそう文
夏休みのしゅくだい　絵日記
考えただけでもゾットする
　やりたくない！
　やりたくない！
夏休みのたのしみをこわしていくしゅくだい
やりたくなくてもやらされるしゅくだい
ダダをこねてもないてもやらされる
まるでしゅくだい　あくまのよう
でもかんたんな問題すぐとける
しゅくだいにもてんしがいるのかな
でもやっぱりおそろしい
夏休みのしゅくだいは

入選

ずーっとしんけんな四組

金城小学校3年
伊吹　直紘

いつもしんけん
ときどきぷんぷん
いやなときも
うれしいときも
楽しいときも
どんなときにもがんばっている
ずーっとしんけんな四組

入選

サッカー

金城小学校3年
樂満　悠希

ぼくのあこがれせんしゅ　ネイマールだ
ネイマールは　メッシのように強く
スーパーせんしゅだ
ブラジル出身で　ペレと同じ出身地だ
ブラジルは　強いけどイングランドも強い
日本のサッカーも
ブラジルにかった　マイアミのきせきがある

世界てきに有名な
バルセロナ
マンチャスターンティ
パリサンジェルマンが　今は強い

サッカーといえば10番だ
ぼくは一回だけサッカーを見に行った
セレッソ大さかたいＦＣ東京を見に行って
おうえんがすごかった
ボールを　けったら
どーんと音がなった
スタジアムは　だ円だった
ぼくも　ネイマールみたいになりたいな

入選

すいぞくかん

高宮小学校3年
グエンヴーコア

水ぞく館に行った
魚やペンギンがいっぱいいた

イルカショーをみにいった
イルカがおじぎをしていた
すごいなと思った

つぎにくらげを見た
くらげがふわりふわりとおよいでた
きもちよさそうだと思った
またいきたいな

入選

スキー

金城小学校4年
野瀬　理一

スキー場でジャンプした
一回目びっくりした
ひさしぶりだったから
二回目楽しかった
思い出したから
三回目かんたんだった
思い出した
だから三メートルから四メートルも行く
「ふわっとしてばん」といくのがおもしろい
次は　回転もしてみたいな

入選

ウィンドサーフィン

稲枝西小学校3年
ベネット 知希

ぼくの家の近くは
琵琶湖

ウィンドサーフィンをする
できる日は行く
風が強い日はつかれる
でもまだ下手だからもっとして
上手になりたい

楽しい
あきない
もっとしたいな
ウィンドサーフィン

【小学5年生・6年生】

特選

化石進歩

城西小学校6年
本田　彩葉

博物館にて
ティラノサウルスの
全身骨格　発見
この骨だらけの場所
でも　目立つ
今生きていたら
住むとこないな

博物館にて
トリケラトプスの
頭の化石　発見
重そうな化石
デカイ　スゴイ

博物館にて
ケースの中で
きれいな化石の植物
今にはない
昔にはある
どこへ消えた？

博物館にて
かざられていた木
表面は
つるつるメノウ
さわってみたら
イスのように　つるつる
すわれそう

化石　どれも昔のままで
残ってくれた

感謝する！

（評）博物館で実物の化石と出会った驚きと喜びが「発見」という言葉から強く伝わって来ます。さらに「今生きていたら」「どこへ消えた」などの地球の不思議への問いかけからも、作者の目の輝きや行動の様子までが想像できる詩に表わせています。タイトル「化石進歩」の「進歩」や最後の「感謝する」はない方が作者の感動が素直に読み手に伝わるのではないかと思います。

（彦根文芸協会　谷口　明美）

特選

気がついたら

平田小学校6年
川上　優輝

今はだれもおさえきれない
だれも止められない
やりたいことがありすぎて
深呼吸なんて意味がない
いつもとちがう考えが
心にずっと止まっている
こどうがはやくなっていく

今　ここで
今　そこで
とべる様な感じがする
息をすって
息をはいて
今ここをとんでみたい
今を感じて
とりになって
この空をとんでみたい

神様はどんな感じ？
いつも以上のぎもんが　考えが
今ここで
火山のようにばくはつしてしまいそう

（評）「空を飛びたい」という胸いっぱいの止められない気持ちが、無駄な言葉なく表現できています。「気がついたら」というタイトルや「今　ここで」「息をすって」と繰り返される言葉や「火山のようにばくはつしてしまいそう」の強い表し方に、思わず読者も乗ってしまいそうです。

（彦根文芸協会　谷口　明美）

準特選

間ちがえたっていいじゃないか

城北小学校6年
市川　絵梨

間ちがえたっていいじゃないか
勉強
間ちがえたっていいじゃないか
英語のスピーチ
間ちがえたっていいじゃないか
音楽会
間ちがえたって
何も悪くない

「大丈夫だよ　落ちこまないで」
そんな仲間がそばに
居てくれる
間ちがえたこと
失敗したことは
だれにでもあることさ

さぁ前を向いて
頑張るぞ
進歩するぞ
何があっても大丈夫
いつだって平気
それが人間

（評）人は誰でも、日々の生活の中でうまく成し遂げて喜んだり、失敗して気持ちが沈んだりすることがありますが、それを乗り越えて生きています。「間ちがえたっていいじゃないか」のタイトルや「だれでもあることさ」「何があっても大丈夫」という言葉は、他人にも自分にも温かい励ましの言葉として伝わって来ます。

（彦根文芸協会　谷口　明美）

準特選

個　性

城北小学校6年
草野　佑輔

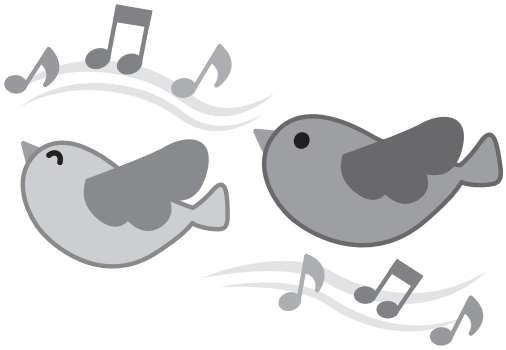
人間っていいなぁ
地で歩けるし　水も泳げる
いろんな物も食べられる
きれいな音色もだせる
けど空を実際飛べはしない
私はそういう個性があると
鳥たちがいいました

鳥っていいなぁ
空は飛べるし　身軽だし
いろんな物も食べられる
とてもきれいで美しい
けど団結力や知性はまけない
私はそういう個性があると
人間たちがいいました

みんなそれぞれ個性がある
それを生かして生きている

（評）各連（まとまり）の始めの「人間っていいなあ」「鳥っていいなあ」という言葉に夢があると思いました。作者が「人間」と「鳥」に立場を変えて「鳥たちがいいました」「人間たちがいいました」と表わしているところもおもしろいです。見方を変えると、あたりまえに思っていた人間にしかできないことにも気づけるのですね。

（彦根文芸協会　谷口　明美）



佳作

花　火

城北小学校6年
野村　莉那

夏の夜空に
パッと明かりがつく
そのしゅんかん
パッと色あざやかに
花火が広がる
それを合図に
色とりどりの花火が
上がる

夏の夜空に
花火が広がる
そのしゅんかん
パッとみんなが
笑顔になる
まるで花のつぼみが
開花するように

一つの花火で
みんなが笑顔になる
その輝く笑顔を守りたい

佳作

私は、川が好き

平田小学校6年
フェルナンデス ジャイラ

川のおと　たぶん
石にぶつかった水は
大きくはねあがり太陽の光とかさなって
キラキラする

落ち葉はゆらゆら
ゆっくりながれている
水の中をのぞくと
小さいさかな
きれいな石
カニの親子がみえる
水がとても気持いい

わたしは　川が好き

佳作

空

城東小学校5年
片瀬　実優

空はいつもいじわる
大切な時に雨がふる
大切な時間に雨がふる
なんとかならないかな

空はいつもごきげん
楽しい時にわらってる
楽しい時間にわらってる
とっても楽しそう

空はいつもすねる
気分がうかない時にくもる
気分がうかない時間にくもる
私といっしょ

空は私たちと同じ
気持ちをかくしてるの
いいえ
見せたくてたまらない
そう思ってるにちがいない

佳作

個性のはなを

佐和山小学校5年
富藤　さゆき

人間はみな絶滅危惧種
だって自分と同じ人なんていないから
心も体も感じ方もぜんぶちがう
だからいいんだ

ちがいはけんかにもなる
でも自分の世界も広げられる
だれかの一言でそうさできる

ちがいはふくざつ
ちがいがはずかしい人も
ちがいがきらいな人も
個性とみる人もいる

ちがいの種を共にまき
仲間という太陽や水をさしのべ
笑顔というはなを咲かせる
そして雨にも風にもまけぬ
一輪のはなになるように
認めあって
助けあって
きれいなはな畑をつくりたい

入選

やめてください

城北小学校6年
礒井　心春

ものすごく
大事なプリント
机に出すと
犬がくわえて
走ってく
もうやめてくれ
プリントが
ビリビリなって
帰ってく

入選

暈（かさ）を放つ月

平田小学校6年
南部　花寧

光のベールが
のろくて　夜になると灰色になる
けむりにさしかかる

光のベールをかぶる女王様は
明るい顔で
十五夜の空から国民を見つめ
「今日も平和だ」と笑う

今年一番
女王様が喜びにかがやいている

光のベールが
のろくて　夜になると灰色になる
けむりにさしかかる

満足した女王様は
そのままけむりのカーテンをしめて
安心してねむった

入選

プラバン

城東小学校5年
若林　美月

久しぶりに作った
プラバン
なぜか前より
上手になった

前より上手に出来た
プラバン
あまり
ボコボコしていないし
色使いは
だんとつに上手になった

なぜだろう
とっても久しぶりなのに

なぜだろう
同じ作り方なのに

そして無自覚な成長をよろこぶ

入選

季節

平田小学校6年
松尾　杏

春動物は顔を出し
　植物は春風とおどってる
　　春はやさしさを見せてくれる

夏太陽はギラギラ光り
　海はキラキラ笑ってる
　　夏は強さを見せてくれる

秋もみじはゆれて落ち
　秋のじゅうたんができる
　　秋は美しさを見せてくれる

冬は花がさかないが
　夜雪で明るくなる
　　冬はさみしさを見せてくれる

だから私は
　季節が好き

入選

うみのこ

城東小学校5年
佐渡　大輝

家に帰ってきても　ゆれている
びわ湖の上にいるように

青と白の大きなうみのこ
ドラの音がひびく
風がふく

お父さんも　お兄ちゃんも乗った
次は妹
また乗りたいな　うみのこ

ぐらぐら　ゆれる
ゆれる　ふね
たのしかったな
思い出いっぱい
ありがとう　うみのこ
ずっと　まだ
ぼくの心は　ゆれているよ

入選

人生

城北小学校6年
古澤　舜椰

人生はつみき
人生もつみきもあたえられたものを
組み立て個性をだす
くずれてしまうこともあるが
そこからもう一度組み立てる
変わりつづけることを
気にするな
人生はつみき

入選

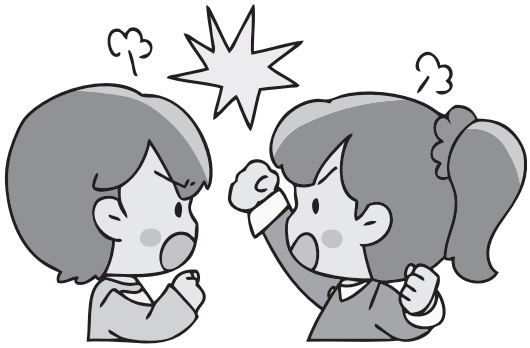
けんか

城東小学校5年
石田　凪

けんかしちゃったけんかしちゃった
ささむくれのような小さなことで
友だちとけんかすることなんてないのに
心がもやもや気持ちがもやもや

あやまりたいけど勇気が出ない
友だちやめる　もう遊ばないなんて
いわれたらどうしよう
頭はもやもやでいっぱい

まっ新しい友達いるし
すぐわすれるし
まっいっか
でも本当は…
こんなんでよかったのかな



【中学生】

特選

私の未来

南中学校3年
堀田　梨央

行きたい高校が多すぎて
いつまでたっても
決まらない

近くにも遠くにも
普通科もそれ以外も
いろいろありすぎる

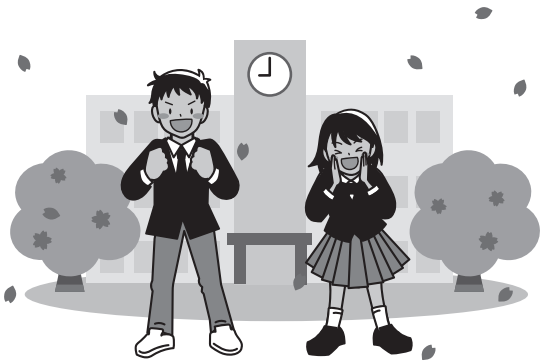
毎日頭の隅で考えて
考えすぎてどうしていいか
分からない

制服　部活　雰囲気　距離
何を重視したらいいかも
分からない

将来とか言われても
まだどうすればいいか
分からない

だれか教えて
いったい私はどうすればいいですか

（評）将来が決まってしまうかもしれない大切な選択なんて！無理！短く書きながら、混乱や不安がしっかり伝わってきます。三行ずつの連がリズミカルに続いて、最後の二行がとても効果的。思い通りの人生もいいけれど、失敗をした人の一生もまた特別美しいものです。
（彦根文芸協会　尾崎　与里子）



準特選

大事な友達

南中学校2年
横田　歩栖

学校へ一緒に行くともだち
移動教室へ一緒に行くともだち
廊下を隣で歩くともだち
部活が一緒のともだち
よく遊ぶともだち
みんなこの学校で出会ったともだち
みんなたくさんたくさん思い出作った
ともだち

みんな同じじゃない
それでも一緒にいたいと思えたみんな
分かり合うことは難しいけど
分かち合うことは私にもできるよ
そう教えてくれたのは
きっと今まで出会ったともだちなんだ
人生の中で出会った人は
みんなみんな大事な友達

（評）「みんな同じじゃない　それでも一緒にいたいと思えた」多様性と共感、現実の大人社会で一番必要とされていることを、まだ人生の入り口に立ったばかりの中学生が考えていることに、その大人っぽさに感動しました。

（彦根文芸協会　尾崎　与里子）

【総評】

（小学生の部）

今年も多数の作品が寄せられ、うれしく読ませていただきました。それぞれが自分の心に強く感じている題材を詩に表わしているのがよかったです。一、二年生の作品が大変少数でしたが、心に止まったことを短い無駄のない言葉に書ける低学年のみなさんこそ、よい詩が作れると思います。詩を作ることは難しいと考えず面倒がらず、暮らしの中で強く心に残った「これ詩にできるぞ」ということを見つけてください。

（彦根文芸協会　谷口　明美）

（中学生の部）

次々におそって来る自然の災害、ウイルス、争いつづけることをやめない国々、私は今、十代のあなたたちに言うべき言葉を見つけられませんが、それでもあなたが小さな詩の中で心にひびく言葉に出会った時、きっとそこにたしかな希望があると信じています。歴史の最初から、詩は人々とともに長い時間を歩んできました。「人は詩をつくり、詩に救われてきた」これからもずっとそうであってほしいと願っています。

（彦根文芸協会　尾崎　与理子）